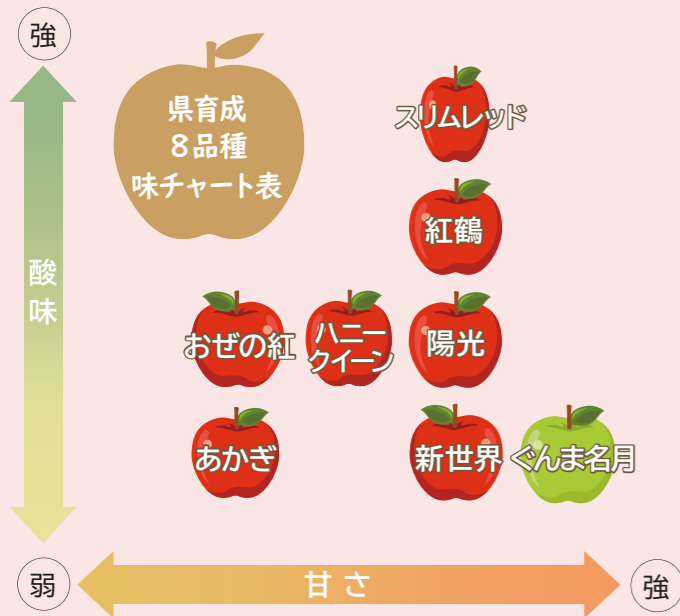


旬や個性を知って味わおう

# あなたの好みはどれ リンゴ味くらべ



8月下旬～9月上旬

## おぜの紅

甘酸のバランスよし

- 2009年
- 「盛岡47号」の自然交雑
- 約350～400g、長円形
- 13%、0.3%



9月下旬～10月上旬

## あかぎ

果汁が多くさっぱり

- 育成完了1975年
- 「ゴールデンデリシャス」の自然交雑
- 約280g、長円形
- 13%、0.2%



10月下旬～11月上旬

## ぐんま名月

多汁・香り・蜜入りよし

- 1991年
- 「あかぎ」×「ふじ」
- 約350g、円錐形
- 15%、0.2%



10月中旬～下旬

## 陽光

果汁多く甘酸バランスよし

- 1981年
- 「ゴールデンデリシャス」の自然交雑
- 約350g、長円～円形
- 14%、0.3%



10月下旬

## 新世界

蜜入りが良く果汁多い

- 1988年
- 「ふじ」×「あかぎ」
- 約300g、扁円形
- 14%、0.2%



10月下旬～11月上旬

## スリムレッド

手のひらサイズ 多汁甘酸多い

- 1995年
- 「ふじ」×「あかぎ」
- 約180g、円筒形
- 14%、0.4%



10月下旬～11月上旬

## ハニークイーン

蜜入りが良く酸味多い

- 1995年
- 「恵」×「レオ11号」
- 約350g、円錐形
- 13～14%、0.3%

# 特集 リンゴでつながる 地域と人

沼田生まれ沼田育ち

昼夜の寒暖差が大きい沼田市はリンゴ栽培に適しており、県内で最も大きい産地になっています。農業関係試験研究機関などで開発された県育成品種も、沼田の地で開発されました。秋の味覚の代表格として親しまれ、毎日の食卓に並ぶ家庭も多いのではないのでしょうか。私たちに笑顔を届け、地域を支えるリンゴの裏側に迫ります。



10月上中旬

## 紅鶴

形良く酸味さわやか

- 2016年
- 「陽光」×「さんざ」
- 約330g、長円形
- 14%、0.3～0.4%

2020年産の群馬県のリンゴ収穫量は6850ト(農林水産省統計)で全国8位、本市の作付面積は県内で最も多く約1000畝を超えます。リンゴの王道「ふじ」をはじめ、県育成品種の「陽光」や「ぐんま名月」が栽培されています。近年では、程よい甘味と酸味のバランスが良いニューフェース「紅鶴」(2016年登録)が育成され、「見た目がきれいで味も良い」と生産者から人気です。県育成品種は全8種類。8月下旬から11月までが旬で、全て市内にある県農業技術センター中山間地園芸研究センターで開発されました。

沼田地域では、昭和30年代から養蚕などに代わり、リンゴの生産を行う農家が増えてきました。現在、市内にある観光農園は約70軒。毎秋、リンゴ狩りににぎわい、県内外への贈答品やふるさと納税の返礼品としても人気があります。

一方、高齢化が進み後継者に悩む農家の対策が課題にもなっています。リンゴ全盛期の20～30年前に比べ、リンゴ農家はおよそ半数にまで減少しています。このような中、リンゴ農家はどのような思いで栽培を続け、次世代へ受け継いできたか、また、リンゴを通じた学びや食の取り組みなどを特集します。併せて、さまざまな技術や加工を駆使して、国内外へリンゴの魅力を発信している生産者を紹介します。



県農業技術センター 中山間地園芸研究センター長 堀込充さん

産地の気候風土に合った個性豊かなリンゴを作り出すことを常に考え、新品种の育種を手掛けて30年近くになります。生産者に「作ってよかった」と喜んでもらえることが励みです。

県内でのリンゴ栽培は主産地である東北地方と比較すると温暖なため、色が付きにくく果肉が柔らかくなりやすい課題があります。この地域に適した品種を作ろうと、1960年、同センターの前身である県農業試験場沼田果樹試験地が開設され、リンゴ新品种の育成が始まりました。当初から育種に取り組んだ研究員の中條忠久さん(故人)に教えを乞い、チャームポイントを持ったリンゴを作りたいというモチベーションで、現在に至るまで、9月のシルバーウィークに楽しめるように、早生と晩生の中間にあたる中生の新品种の育成を目指しています。「沼田の秋の味覚と言えはリンゴ」と、誰もが親しめるように、力を入れていきます。